



10月29日に実施された「第1回 健康まちづくりフェスタin文京・台東」でのまち歩きから(湯島)

- 食べものや農業はこの先どうなっていくのでしょうか？
- 大川小裁判の判決をどう読むか(その1)
- リニア問題を知るために
- 【連載】「健康まちづくり」とは何か？
- 地下からの気化物質の侵入の検出と軽減

市民研
NPO法人 市民科学研究室

市民研へのご入会／ご寄付のご案内

この『市民研通信』に紹介されている記事論文など、市民研の活動成果は、どなたであっても無償で読んでもらえるように、ホームページですべてを公開しています。市民研では、こうした非営利・完全公開の趣旨に賛同し支えてくださる方々に、ご入会やご寄付をお願いしています。

ご送金・ご入会・ご寄付につきましては以下のやり方をお願いしています。

● **100円単位の送金** 100円単位のカンパや少額の送金（郵送費など）にご利用ください。

市民科学研究室の新しいホームページのメインメニューに「ご支援のお願い」があります。そこから「**市民研オンラインショップ**」のサイトにつながります。そのなかに、「一口100円ご送金」のカートがありますので、ご利用ください。

● **会員登録** 年会費を送金して次のいずれかの会員になることができます。

- ★ **レイチェル会員**………年会費 10,000円（総会における議決権あり）
- ★ **ダーウィン会員**………年会費 3,000円

会員になると、

- ・市民科学講座など市民研主催のどのイベントでも参加費（資料代）が半額になります（ただし市民科学講座Aコースもしくは飲食の提供を伴うイベントについては「半額」は適用されません）。
- ・市民科学研究室所蔵の書籍・文献資料や映像資料を借りることができます。
- ・事前にご連絡いただければ、u-stream配信をすることになるイベントについては、それへのアクセス情報をお伝えします。
- ・事前にご連絡いただければ、各研究会のほぼ毎月行われる会合にskypeで参加できます。
- ・レイチェル会員には市民研が今後発行する有償の出版物などがすべて無償で送付されます。

● **ご寄付** 一口1,000円から受け付けております。

ご送金の方法は以下のいずれかをお願い致します。

郵便振替………口座加入者名：市民科学 振替口座番号：00160-4-608503

オンライン決済………市民研ホームページの「市民研オンラインショップ」から

Information

市民研 実践料理講習会＋新年交流会 1月8日(日) 17:00-20:00

2017年の1月8日に市民科学研究室「実践料理講習会＋新年交流会」を開きます。とても楽しい集いです。ぜひご参加ください。

市民研をご支援くださっている会員の皆さん、様々な活動でご一緒した方々、市民研のスタッフや研究会の仲間たち、そして「市民研ってなんとなく面白そうだから、ちょっと覗いてみようかな」と思っているあなた……どうか一度、この交流の場にご足をお運びください。毎年40名から50名が集う、恒例となっている楽しいイベントです。料理の味は一級、知的好奇心を掻き立てる発表も目白押し。新たなネットワークを作るよい機会にもなることでしょう。2017年を乗り切っていく活力を得ていただければと思います！

● 14:00～16:30 実践料理講習会 [定員15名]

● 17:00～20:00 新年交流会 [定員50名、参加費3000円]

◆ 場所：アカデミー湯島・実習室(5Fの一番奥の部屋) 千代田線「湯島」駅から徒歩4分

◆ お申込み：お早めに市民科学研究室まで、以下のいずれかをお願いします。

電話：03-5834-8328 / メール：renraku@shiminkagaku.org / 市民研ホームページ専用サイト



Information

「子ども料理科学教室」の担当スタッフを募集中！

2017年4月から1年間、毎月第4日曜日の午前午後を使って、自由が丘から徒歩1分の所にある「**魚菜学園 自由が丘お料理学校／よみうりカルチャー自由が丘**」で、子ども料理科学教室(午前)ならびにその大人向けヴァージョン(午後)を実施することになりました。市民科学研究室から4名が講師として毎回、教室に赴くことになります。

市民研の「食の総合科学研究会」のこれまでのスタッフと一緒に、新たにこの仕事をすすめてくださる方を募集いたします。

料理作りと子どもと接することを楽しく思える方なら、年齢や性別や経験は問いません。ただ、上記日曜日を確保でき、事前の研修や研究会へ参加する余裕が持てそうなので、お住いが自由が丘にできるだけ近い方を希望します。アルバイト料は教室1回(3時間ほど)につき5000円です(交通費込み)。

お問い合わせ・ご応募は市民科学研究室までお願いします。



Event

市民研・科学コミュニケーションツール研究会 主催 生活習慣病対策ゲーム「ネゴバト」体験会

生活習慣病に関係するだろう、「わかってはいるけどやめられない」様々な行動(職場の飲み会、ネット閲覧で夜更かし……等々)を論じ合う、対面交渉のゲーム「ネゴバト」。

今年の夏にゲームパッケージが完成したことを機に、多くの方々にまずは無償で体験していただく機会を設けたいと思います。

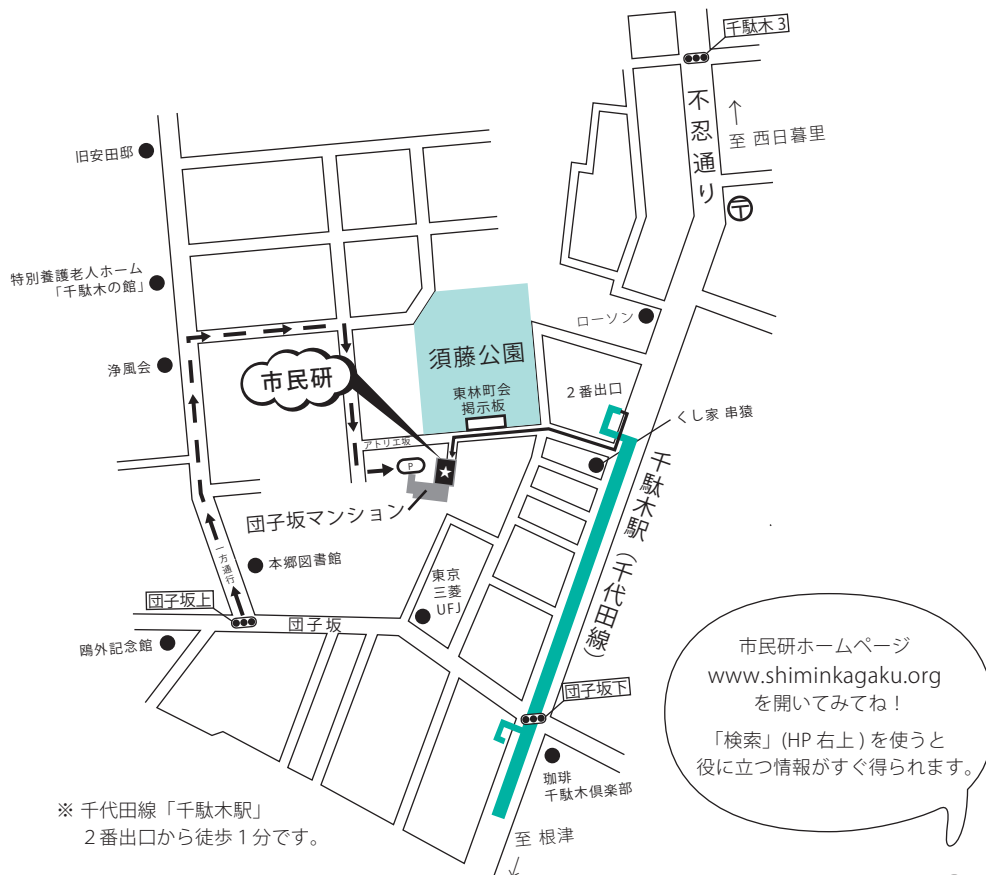
これまでも数多くの試験的な実施の機会を持ちましたが、今後はとりわけ、地域での健康指導などでの活用が期待されます。「初対面同士でも話題に困ることがなく、自分のことを知る機会にもなる」と評価いただいているため、「第1回 健康まちづくりフェスタ」においても、イベント開始時に導入することが決まっています。ぜひ一度体験してみてください。

場所は、文京区民センター地下1階にある「ファミコム」です(地下鉄「春日駅」から直通)。

日にち	12月18日(土)
時間	13:00-14:30 (12:30開場)
場所	東大医学部図書館3階セミナー室
参加費	無料



⇒事前予約が必要です(定員24名先着順、申し込みは市民研ホームページより)



※ 千代田線「千駄木駅」2番出口から徒歩1分です。

市民研ホームページ
www.shiminkagaku.org
を開いてみてね！
「検索」(HP右上)を使うと
役に立つ情報がすぐ得られます。



〒113-0022 東京都文京区千駄木 3-1-1 団子坂マンション公園側棟 ☎ 03-5834-8328 / fax. 03-5834-8329

renraku@shiminkagaku.org / www.shiminkagaku.org

NPO法人 市民科学研究室

中田哲也さん、
食べものや農業はこの先どうなっていくのでしょうか？

講師：中田哲也

(岡山大学農学部卒業後、農林水産省に入省。農林水産政策研究所、九州農政局等を経て、現在、統計部数理官。)

「飽食」とも呼ばれるほど表面上は豊かな現在の私たちの「食」。しかし、栄養バランスの乱れ、食に対する不安感の増大、自給率の低下、食を支える国内農業の脆弱化など、多くの問題を抱えています。より豊かな未来の食の実現に向けて「フード・マイルージ」(※)という指標をヒントに、一緒に考えてみたいと思います。

⇒講義録は市民研 HP で

※フード・マイルージとはイギリスのNGOによるフードマイルズ運動(なるべく身近でとれた食料を消費することによって食料輸送に伴う環境負荷を低減させていこうという市民運動)の考え方を参考に、農林水産省農林水産政策研究所において開発された指標です。



【連載】「健康まちづくり」とは何か？」 第1回
「まち歩き」を中核にした総合イベントの可能性

先の10月29日(土)の午後に、文京区の湯島・本郷・向丘・千駄木のめぐる「まち歩き」を軸にして5時間ほどをかけての「第1回 健康まちづくりフェスタin文京・台東」を実施しました(同時時間帯に併行して、文京区立目白台運動公園を使つての「ポールウォーキング教室」も実施しました。

これは現在、市民科学研究室が科学技術振興機構(JST)からの助成を受けてすすめている事業の一環です(※)。「健康まちづくり」を創発する協働型市民フェスタ事業の推進」と題したテーマを掲げ、「地域」「科学」「健康」への関心を相互に関連付け、健康に住まう意識の向上を創発できるモデル事業を確立する試みです。

※科学技術コミュニケーション推進事業 問題解決型科学技術コミュニケーション支援ネットワーク形成型 平成27年度企画提案

この連載では、2015年7月から開始されて1年半を迎えようとするこの事業をふりかえりつつ、「健康まちづくり」とは何か、全国にどのような取り組み事例があるのか、医療や保健政策においてどのような位置づけがなされているのか、さらには科学技術の面からみてどのような興味深い開拓的な要素があるのか、といったことを論じてみたいと思います。



坂の多い文京区の坂の一つ。千駄木にある日本医科大学に沿ってある「解剖坂」。

⇒続きは市民研 HP で

短期連載
大川小裁判の判決をどう読むか ～その1～

東日本大震災の津波被災によって、学校にいた児童74名、教員10名、迎えにきていた大川中学生徒3名、地区住人らが石巻市立大川小学校で命を失いました。現場生存者は児童4名、教員1名でした。児童23人の19遺族による国家賠償請求訴訟で、仙台地裁(高宮健二裁判長)は2016年10月26日、石巻市と宮城県に約14億円の支払いを命じました。被告の控訴発表を受け、原告も控訴方針を示すことになりました。津波被災の原因はどこまで検証されたのでしょうか、学校行政、防災教育にどのような教訓を導けるのでしょうか、現地調査、検証委員会傍聴をふまえ、判決文を検討します。

巨大地震・地震津波災害を未来に向けて語る

2008年6月15日に富山大学にて開催された「アースデイとやま2008」では、人間発達科学部人間環境システム学科環境社会デザインコース学生有志とともに、「地震の真実をどれだけ知っているのか? そして、何ができるのか?」と題して、ポスター展示を実施しました。

2007年3月の能登半島地震を経験し、2007年度後期に始まった「プロジェクト研究」という学部2年生向けの授業では石川県七尾市の和倉温泉の被災地見学を皮切りに、グループに分かれた学生たちが地域防災計画や住宅耐震化の課題、避難所生活でのプライバシー確保などの問題に取り組みました。その成果を、学内の活動に留めることなく公表するための機会が「アースデイとやま2008」に得られたのでした。

⇒続きは市民研 HP で



【翻訳】それは地下からやってきた：
気化物質の侵入の検出と軽減

翻訳：五島廉輔
五島綾子
上田昌文

Environmental Health Perspectives 124巻8号(2016年8月)より

原題 It Came From Beneath: Detecting and Mitigating Vapor Intrusion

著者 Rachel Cernansky (フリーランスのジャーナリスト)

【訳者からのメッセージ】

翻訳しながら豊洲は大丈夫だろうかと不安を覚えました。地下から健康に悪影響をもたらす気化物質が室内に侵入し続けるとしたら、想像するだけで気分が悪くなります。この論文では、このような大問題が米国では1990年代後半から取り上げられるようになり、気化物質の健康への影響、発生メカニズムと軽減対策の科学的、技術的取り組みが本格化してきたプロセスが紹介されています。身近な難題ですが、この論文の一つの魅力は気化物質の検出と軽減システムを研究し、商品化するベンチャーの誕生とそれを後押しする公的プロジェクトが同時に紹介され、アメリカならではと思いました。(五島廉輔、五島綾子)

室内の空気の質は長い間重大な公衆衛生の議論的であったが、気化物質の侵入が室内空気汚染の源として認められたのは比較的最近のことであった。今日、研究者たちは建物の下の土壌や地下水から侵入してくる揮発性化学物質の測定と制御のためにより良い方法を探し求めている。

気化物質の侵入はしばしば汚染した地下水と関係づけられている。揮発性物質の広範囲の使用がアメリカ合衆国全体にわたって、無数の地下水プルーム1)を生じていた。記録がとられている地下水プルームもあるが、そうでないものもある。1958年頃にみられた、ニューヨーク州エンディコットにあるIBMの製造工場がよく研究された用地の一つである。

⇒続きは市民研ホームページの「活動と資料」のなかの「海外文献翻訳」でお読みいただけます。



資料紹介
リニア中央新幹線問題を知るために

リニア中央新幹線の建設・開通にむけて、沿線の各地での動きが慌ただしくなっています。JR東海の全額自己負担を前提に工事認可が出されたにもかかわらず、国会においてわずか2日間という短い審議を経て、国からの3兆円の支援を可能にする法改訂が通過し、11月29日から財投(財政投融資)からの融資が開始されます(財投は政府が国債などを通じて国民から調達した資金による融資です)。このいい加減さに象徴されるように、リニア中央新幹線は問題だらけの計画です。一人でも多くの方々にそのことを知っていただき、巨大な「負債」を生まないようにするために、声をあげてもらえればと思います。参考にしていただけるだろう資料をいくつか、掲げておきます。これらの資料はWebで全文閲覧できますが、単行本としてまとまっているものも後ろに挙げています。]

●市民科学研究室の上田が書いた論考:「リニアは“交通の役割”の時代錯誤」(季刊『アゴラー相模原 市民がつくる総合雑誌』2012年夏61号)／「リニア中央新幹線「環境影響評価準備書」にみる磁界安全論は妥当か」(『市民研通信』第22号) 2014年1月

●上岡直見(環境経済研究所)講演資料「リニアで得する人・損する人一数字でみる リニアと私たちの暮らしー」リニア新幹線を考える相模原連絡会 学習会2016年11月20日

●「おそくはない! いま、ひきかえすときーリニア計画」の『ストップリニアニュース』 リニア新幹線を考える相模原連絡会

●『“悪夢の超特急”リニア中央新幹線」著者・樫田秀樹さんインタビュー『通販生活』「今週の読み物」

●「リニア中央新幹線 南アルプスに穴を開けちゃっていいのかい? 南アルプス・環境アセス・事業見通し みんな穴だらけ」



【翻訳】PM2.5と腎機能：
長期間曝露は穏やかな低下に導くかもしれない

翻訳：五島廉輔
五島綾子
上田昌文

Environmental Health Perspectives 124巻9号(2016年9月)より

原題 PM2.5 and Kidney Function:
Long-Term Exposures May Lead to Modest Declines

著者 Nate Seltnerich (サイエンスライター)

【訳者からのメッセージ】

この論文はPM2.5長期曝露が高齢男性の腎機能低下を導く可能性があるかもしれないという報告をまとめたものです。大気汚染微粒子の増加が高齢者にもたらす影響は今後さらに大きくなるかもしれないことを示唆しており、大気汚染が弱者の健康にじわじわともたらす悪影響に我々は注視しなければなりません。(五島廉輔、五島綾子)

微小粒子状物質(PM2.5 1))曝露露不整脈や肺塞栓症(動脈閉塞)のリスクを増加することを含めて、心臓血管の健康影響と関連している。しかしながら、PM2.5と腎機能との関係、あるいは単独で心臓血管へのリスク要因となるかどうか、さらにはそれ自体で重要な健康指標になり得るのか、という点はまだ十分には解明されていない。このたびになされた長期間にわたる研究は、PM2.5曝露によって、腎臓の機能低下が生じ、長期間でみた場合の機能低下が促進されることの証拠をいち早く示している。

環境中の浮遊粒子と心臓血管疾病との関係は分子または機能レベルでのいくつかの径路によって説明できる証拠があるけれども、その関係を説明できるかもしれない根本的なメカニズムは十分に解明されていないと、the Harvard T.H. Chan School of Public Health.の客員科学者で筆頭著者のAmar Mehtaは述べている。

⇒続きは市民研ホームページの「活動と資料」のなかの「海外文献翻訳」でお読みいただけます。

